

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 8 年 6 月 2 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人 BORDER FREE		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	東京都多摩市		
④責任者氏名	小島慶久	(役職名等)	理事長
⑤担当者氏名	野嶋優那	(役職名等)	理事

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-034	⑦助成金額	35 万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	中学生を対象とした集団授業教室「わせた教室」				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	東京都新宿区 牛込柳町・曙橋				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

「わせた教室」は、主に大学生が講師となり、**経済的に困難を抱える家庭の子どもたちや、学校・学習塾に馴染めない子どもたちの居場所づくり・学習支援**を行う、少人数の集団授業教室です。

〈クラス設定〉・数学 中 1 クラス / 中 2 クラス
・英語 英検 3 級クラス / 英検 4 級クラス

〈対象〉中学 1 年～中学 3 年

〈日時〉・数学 毎週火曜 18:00~20:30 (2 クラスを別の場所にて同時開催)
・英語 毎週金曜 18:00~20:30 (2 クラスを別の場所にて同時開催)

※前半 1 時間 30 分を勉強会（自習）・後半 1 時間を集団授業に充てます。

2025 年度の**総生徒数**は **21 名**であり、**継続率（3 カ月以上）**は **81%**となりました（12 月時点）。生徒からは、「毎週先生に会いに教室へ来るのが習慣となり、**勉強に対する抵抗感がなくなった**」「教室の授業で扱った範囲が実際に学校のテストで出題され、**良い成績を取れた**」といった声をいただきました。生徒と良好な関係性を築いたことで、学習自体に関する支援に留まらず、**学習へ前向きに取り組む姿勢**も育むことができたと考えています。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1,040	2.5	2,600	A : 1 クラス 5 名 × 4 クラス × 年 52 回
高校生等				
大学生等				
学習支援員等	624	2.5	1,500	A : 1 クラス 3 名 × 4 クラス × 年 52 回
その他				
合 計			4,160	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：中学生を対象とした集団授業教室「わせだ教室」

法人・団体名：特定非営利活動法人 BORDER FREE

作成者 氏名：野嶋優那

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

「わせだ教室」は、経済的に困難を抱える家庭の子どもたちや、学校・学習塾に馴染めない子どもたちの居場所づくり・学習支援を行う、少人数の集団授業教室です。

当教室は、2024 年度に開始した新しい事業です。2024 年度においては、クラス設定を英語・数学それぞれ 1 クラスずつしか設けていませんでした。そのため、1 クラス内に中 1～中 3 の生徒が混在し、生徒間の学習進度に著しい差ができてしまい、生徒全員のレベルに合った集団授業を届けることが難しい状況でした。

そこで、2025 年度はクラスを増設し、英語・数学それぞれ 2 クラスずつの展開とし、生徒が自分のレベルに合った授業を受けられるような体制を構築しました。

2. 実施した奨学活動の詳細

わせだ教室概要

〈クラス設定〉

- ・数学 中 1 クラス / 中 2 クラス
- ・英語 英検 3 級クラス / 英検 4 級クラス

〈対象／定員〉

中学 1 年～中学 3 年 / 各クラス最大 12 名

〈場所〉

新宿区 牛込柳町・曙橋

〈日時〉

- ・数学 毎週火曜 18:00～20:30（2 クラスを別の場所にて同時開催）
- ・英語 毎週金曜 18:00～20:30（2 クラスを別の場所にて同時開催）

〈実績〉※12 月時点

- ・総生徒数 21 名
- ・継続率（3 カ月以上） 81%

教室を、生徒全員にとって安心して過ごせる居場所にしてもらうため、休憩時間には生徒と一緒に談笑したりゲームをしたりと、なるべく温かく楽しい雰囲気をつくることを心がけています。

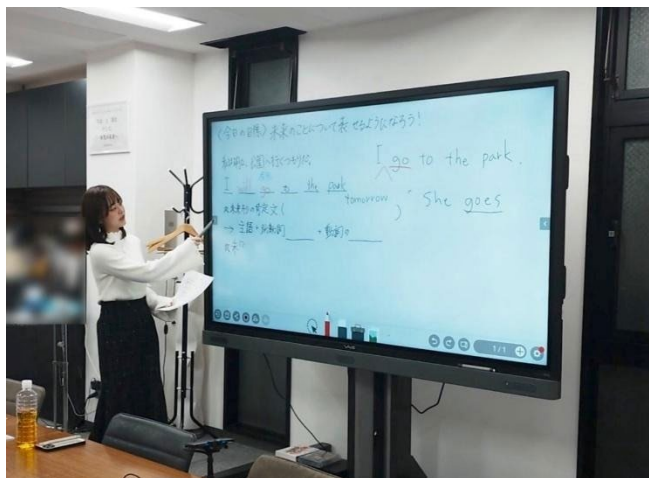
1 回の教室の流れとしては、まず 1 時間 30 分の勉強会（自習）を行います。学校の宿題や、英検・数検といった検定試験の参考書等を自由に持参してもらい、自分のペースに合わせて学習します。分からないところは、すぐそばにいる講師にいつでも質問することができます。

次に、最後の 1 時間で集団授業を行います。授業内容を誰が聞いても理解できるように、基礎から丁寧に説明することを意識しています。オリジナルで作成したプリントを用いており、学習が楽しくなるヒントや知っておきたい豆知識といった、各講師の創意工夫を盛り込んだ授業となっています。

また、「わせだ教室」には、大学生を中心として、高校生からシニアまで幅広い世代の講師が在籍しています。この多様性を生かし、各講師は、高校生・大学生・社会人というそれぞれの立場から生徒の相

談に乗ったり、自身の経験を共有したりしています。生徒は講師を身近なロールモデルとすることで、自分の将来の夢や進路選択について考える際に役立てることができます。実施に、数名の生徒からは「いつか先生と同じ大学に進学したい」という声も挙がっていました。

〔実際の教室の写真〕



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

高校受験を控えている生徒が多いことから、2026 年度は受験に対するサポート体制の構築が喫緊の課題であるといえます。具体的には、英語・数学ともに中3生向けのクラスを増設し、「進路決定に係る生徒・保護者との連携の強化」「受験に関するノウハウの共有」「過去問演習等を通じた入試得点力の育成」の3点に力を入れていきます。

また、教室外での学習習慣の定着化も課題として挙げられます。教室では集中して学習しているが、家に帰ると自力で机に向かうのは難しいという生徒も依然として多いのが現状です。そのため、教室の中で講師と一緒に学習スケジュールを作成したり、授業で次週に向けた宿題を出したりする等、自律的に学習に取り組むためのサポートも積極的に行いたいと考えています。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

初めて教室に来た時には「どうせ自分は勉強なんて頑張ってもできるようにならないから」と、半ば諦め、授業中に寝てしまっていた生徒も、教室で講師と一緒にできない单元まで戻って復習をし、一つずつ理解を深めていったところ、「自分はやればできるんだ」ということに気が付き、自分に自信を持てるようになっていきました。いつの間にか、自分で購入した参考書を教室に持参して机に向かい、分からないところを積極的に講師に質問してくれるようになりました。

学習支援活動において、講師の側は、つい「いかに勉強を分かりやすく教えるか」ということを気にしがちかと思います。しかし、この経験を通して、「勉強に対して苦手意識をもつ生徒の気持ちに寄り添うこと」「辛抱強くコミュニケーションを取ることでお互いの信頼関係を築き、生徒が前向きに学習に取り組める環境をつくること」といった、心理的な面でのサポートがまず何よりも重要である、ということに改めて実感しました。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）